

為替週間展望 = ドル円は 107 ~ 108 円台でのレンジ相場か

[10月14日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		10月7日 ~ 10月11日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	106.97	108.13(11)	106.57(7)	107.99	+1.05
ユーロ・ドル	1.0979	1.1034(10)	1.0941(8)	1.1016	+0.0037

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	21,798.87	+388.67	日本10年債利回り	-0.183	+0.028
ダウ平均株価	26,496.67	-77.05	米10年債利回り	1.668	+0.139

=====

< 来週の主要経済統計等 >

- 22日 カナダ6月卸売売上高
- 14日 中国9月貿易収支
 - ユーロ圏8月鉱工業生産指数
- 15日 豪中銀 (RBA) 議事録
 - 中国9月消費者物価指数、中国9月生産者物価指数
 - 日本8月鉱工業生産指数確報値
 - スイス9月生産者・輸入価格
 - 英9月雇用統計
 - 独10月ZEW景況感指数
 - 米10月NY連銀製造業景気指数
- 16日 NZ第3四半期消費者物価指数
 - 英9月消費者物価指数、英9月生産者物価指数、英9月小売物価指数
 - ユーロ圏8月貿易収支、ユーロ圏9月消費者物価指数
 - カナダ9月消費者物価指数
 - 米9月小売売上高
 - 米地区連銀経済報告 (ページブック)
 - 米8月対米証券投資
- 17日 豪9月雇用統計
 - 英9月小売売上高
 - 米9月住宅着工・許可件数
 - カナダ8月製造業出荷
 - 米新規失業保険申請件数、米10月フィラデルフィア連銀景況指数
 - 米9月鉱工業生産・設備稼働率
- 18日 日本9月消費者物価指数
 - 中国9月鉱工業生産指数、中国9月小売売上高
 - 中国第3四半期国内総生産 (GDP)
 - ユーロ圏8月経常収支
 - 米9月景気先行指数

【前回のレビュー】米国での景気減速への警戒感から米国の利下げ期待が高まりを見せていることで、ドル円は上値の重い展開が続いており、今後の米中貿易協議の進展期待はドル円にはプラス要因とはなるものの、米国の経済指標の悪化が続いており、ドル円は軟調な動きが見込まれるとした。

【米中協議の動向に左右されやすい展開】

米中閣僚級協議を前に米中対立への警戒感や合意への期待感などが交錯して、各国の株価や為替は上下に振幅している。

10日には米中閣僚級通商協議を前に午前中はドル円が荒れた動きを見せた。香港紙が今週行われていた次官級協議について目立った進展はなかったと関係者筋情報として、閣僚級協議も当初予定の2日間ではなく10日だけで終わりとなり、劉鶴副首相は今晚にもワシントンを去ることになると協議が物別れに終わるとの見通しを報じた。こうした報道を受けて、ドル売り円買いの動きとなって、ドル円は107円台半ばから107円近辺まで下落した。NYダウ先物も時間外取引で一時的に300ドル以上の下げを見せた。

しかし、その後一転してドルや株の買い戻しとなった。通信社が関係者筋情報として劉鶴副首相が11日まで米国に滞在する予定と、香港紙情報と異なる見通しを示した。さらに米政府が実施している中国華為技術（ファーウェイ）に対する制裁緩和見通しを報じたことで、一転して107円台後半まで上昇した。

また、米中協議に関しては、中国側から部分合意の提案が報じられた。中国は米国産農産物の追加購入を検討しており、中国側が歩み寄る姿勢をみせている。しかし、米国側はあくまでも知的財産権などを含めた全面合意を模索している。さらに、ウイグル自治区の人権問題に関連して中国企業からの追加禁輸措置が報じられている。閣僚級協議がスムーズに進行するのかがポイントとなりそうだ。

米国時間の10日にはトランプ米大統領から「中国は非常に素晴らしい。我々は中国と合意できるか目にするようになる」などと貿易協議に関して前向きなコメントが出てきたことで、貿易協議の進展期待が高まっている。これを受けてドル円は108円を一時的回復するなど堅調な動きを見せている。

CME FEDウォッチでは、10月のFOMCでの利下げ確率は11日時点では80%前後で推移している。10月に入って発表された米ISM製造業景況指数、米ADP雇用統計、米ISM非製造業景況指数といった米経済指標の悪化で利下げ確率が大きく上昇した後は、高止まりを見せている。

ドル円は米中貿易協議関連の報道に振り回されやすい状況が続いている。ただ、トランプ米大統領から前向きなコメントが出てきたこともあり、108円台を回復するなど堅調な動きを見せている。ドル円は米中貿易協議関連の報道に左右されつつも、107～108円台でのレンジ相場となりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、106.500～108.500円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、15日に日本8月鉱工業生産指数確報値、米10月NY連銀製造業景況指数、16日に米9月小売売上高、米地区連銀経済報告（ページブック）、米8月対米証券投資、17日に米9月住宅着工・許可件数、米新規失業保険申請件数、米10月フィラデルフィア連銀景況指数、米9月鉱工業生産・設備稼働率、18日に日本9月消費者物価指数、米9月景気先行指数などがある。

【ユーロ独自の買い材料には乏しい】

10日の米中閣僚級協議を控えて、持ち高調整の動きなどからドル売りの動きとなって、ユーロドルは堅調な推移を見せた。10日に1.10台を回復している。ドイツやユーロ圏の経済指標は弱めのもみられ、ユーロドルの上昇は景気や経済指標の強さによるものではない。

10日に欧州中央銀行（ECB）が発表した9月のECB理事会の議事要旨では、量的緩和の再開に消極的な参加者が多くいたことが判明した。ECBによる追加緩和観測が後退しており、これもユーロを支える一因となっているようだ。ただ、ユーロ圏の景気は弱く、ユーロそのものの買い材料には乏しいと言えそうだ。こうした中、ユーロドルは戻りが一服すると、伸び悩みからもみ合いで推移しそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0900～1.1100ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、14日に中国9月貿易収支、ユーロ圏8月鉱工業生産指数、15日に豪中銀（RBA）議事録、中国9月消費者物価指数、中国9月生産者物価指数、スイス9月生産者・輸入価格、英9月雇用統計、独10月ZEW景況感指数、16日にNZ第3四半期消費者物価指数、英9月消費者物価指数、英9月生産者物価指数、英9月小売物価指数、ユーロ圏8月貿易収支、ユーロ圏9月消費者物価指数、カナダ9月消費者物価指数、17日に豪9月雇用統計、英9月小売売上高、カナダ8月製造業出荷、18日に中国9月鉱工業生産指数、中国9月小売売上高、中国第3四半期国内総生産（GDP）、ユーロ圏8月経常収支などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買については御自身の判断をお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。